

県内で重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者が確認されています

令和7年10月20日作成
山梨県感染症対策センター

全国的に感染が報告されている重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について、県内在住者が感染した初めての事例が確認されました。このため、改めて注意喚起を行います。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは

- ・ SFTS は主に、SFTS ウイルスを保有しているマダニに刺されることにより感染します。SFTS を発症している動物の血液や体液に直接触れた場合に感染することもあります。
このため、患者はマダニの活動期である春から秋にかけて多く発生しています。
- ・ 潜伏期間は6～14日程度とされています。主な症状は、発熱と消化器症状（吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、下血など）、血小板減少等で、重症化し、死亡することもあります。

●SFTS の予防策と治療方法は？

現在のところ SFTS ウイルスに対して有効なワクチンはありません。マダニに刺されないようにすることが重要です。

これは、重症熱性血小板減少症候群だけではなく、国内で毎年多くの報告例がある、つつが虫病や日本紅斑熱など、ダニが媒介する他の疾患の予防のためにも有効です。

草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、以下のことに注意しましょう。

- 肌の露出を少なくしよう
⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等
- 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用しよう
⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる。
- 足を完全に覆う靴を履きよう
⇒サンダル等は避ける
- マダニが付いていないか確認しよう
 - ・ 目視で確認しやすくするため、明るい色の服を着る
 - ・ 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにする
 - ・ 屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認する
とくに、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意する
- 虫除け剤を使用しよう

ダニに刺されたときの対処方法

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置をしてもらいましょう。
- マダニに刺されたあと数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関を受診しましょう。

また、近年、SFTSを発症したネコやイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や体液、糞便からSFTS ウイルスが検出されています。

ネコなどの動物や野生動物から SFTS ウイルスに感染しないようにするために

- 動物を飼育している場合、過剰な触れ合い（口移しでエサを与える、動物を布団に入れて一緒に寝ることなど）は控えてください。
- 動物に触ったら必ず手洗い等をしてしましょう。また、動物のマダニは適切に駆除しましょう。
- 飼育している動物の健康状態の変化に注意し、体調不良の際には動物病院を受診してください。
- 野生動物は、どのような病原体を保有しているか分かりません。野生動物との接触は避けてください。
- 体に不調を感じたら、早めに医療機関を受診してください。受診する際は、ペットの飼育状況やペットの健康状態、また動物との接触状況についても医師に伝えてください。

治療は、対症療法が主体となりますが、国内では、抗ウイルス薬（ファビピラビル）が、2024 年6月に承認されており、病状の進行が予期される場合には、使用することも検討されます。

<厚生労働省>

ダニ媒介感染症について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

SFTS について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

<国立健康危機管理研究機構>

マダニ対策、今できること

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>